

知財の広場

特許庁ステータスレポート 2023（続き）

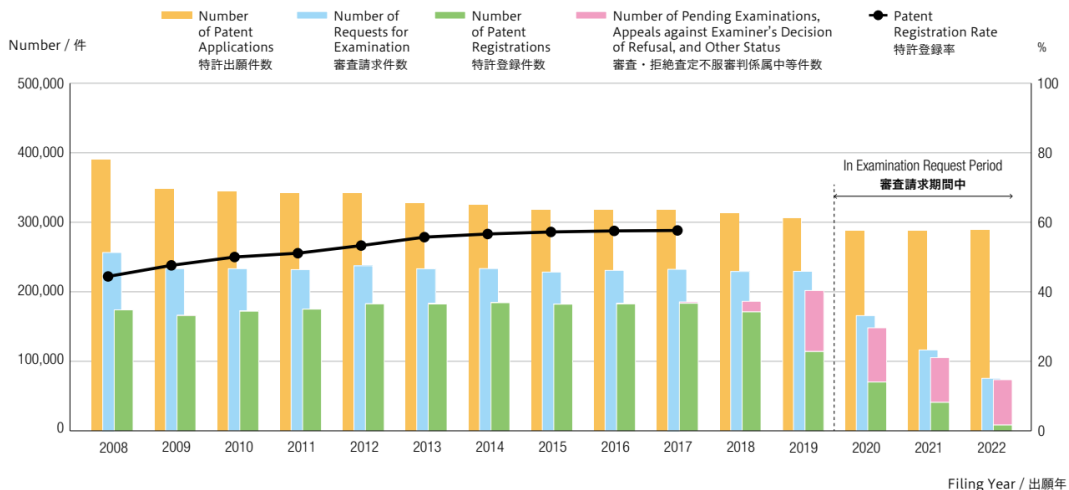
先月に引き続き「特許庁ステータスレポート」についての一考です。

日本の特許出願件数（下図棒グラフ橙色）の推移は、久しく漸減傾向であることが分かります。ところが、審査請求件数（同水色）と特許登録件数（同緑色）は、ほぼ横ばいで推移しています。当然の結果ですが、特許登録率は漸増傾向となっています（下図折れ線グラフ）。

特許出願件数の減少理由としては「リーマンショック後における日本の民間企業による研究開発投資の回復」の遅れや「電気機器メーカーの出願方針が変化したことなど」が指摘されています（引用元：週刊 経団連タイムス No.3481 特許庁長官 談）。

特許出願件数の減少と特許登録件数の横ばいは、見方を変えれば事業への貢献度を重視し出願内容を精査するとともに権利化するものはしっかり登録しているとも考えられるのではないのでしょうか。経営資源としての知的財産の活用促進という意味ではよい傾向ともいえるのではないのでしょうか。

Figure 1-1-4 出願年別特許登録件数等



参照 / <https://www.jpo.go.jp/resources/report/statusreport/2023/index.html>

木村誠治（知財ナビゲーター）